



ボゴタ大運動会

6月12日(日),創立40周年記念ボゴタ大運動会が行われました。本校の運動会の特色は,なんと言っても保護者,地域,各企業,大使館,JICAなど,このボゴタ日本人学校に関わり,支えてくださる方々全てが参加することでしょう。それはすなわち,コロンビアにおける日本人社会が一同に集い交流を図る場であり,日本文化を発信する場であるといえます。加えて今年には創立40周年記念,節目の年でもあります。「ボゴタソーラン」「和太鼓」をはじめとする数々の演目を40周年記念バージョンとして披露したり,本校に集ってくださった方々みんな「40」の「人文字」を作ったりして,特別な年の気持ちの良いスタートを迎えることができました。企画立案から当日の会場整備・片付けに至るまで,関わってくださった全ての方々に,この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

<各色団長の言葉>

紅白対抗の競技ではチームを鼓舞し,競技のコツを伝える姿が見られました。応援合戦の演目内容を検討し,自発的に練習計画を立案し,仲間を集めて指示を出す姿がありました。今年の運動会がどの方の心にも残っているのは,この団長の姿があったからこそです。小学校の最高学年が請け負った団長としての責任。振り返りの記述からも,熱い想いが感じられます。

○白組団長

最初はみんなうまくまとまらなくて不安だったけれど,練習を重ねるにつれ,みんなが協力して練習できるようになったことが嬉しかった。本番は,40周年という記念の年であることやみんなをまとめる団長であるということを強く意識していたので緊張してしまった。応援は最初の頃に比べ全員が声を出していて,そこには「優勝したい」という気持ちがすごく感じられた。負けてしまったのは悔しいけれど,全ての競技に全力で取り組めた。みんなとの絆もより深めることができた。だから,小学校生活最後の運動会は,私にとって,『笑顔』がたくさんありました。

○紅組団長

団長として,応援合戦の紅組の内容と構成を一から考え,みんなで作り上げることができた。練習の中で,白組とは追い抜かれたり追い越したりと,応援合戦の演目の仕上がり具合がすごく気になった。「このチームは大丈夫かな」と不安になるときもあった。頑張れば頑張るほど,チームのみんながついてこないときもあった。でも,振り付けや台詞を考え,元気が特徴のこの紅組を上手に導くことで,動きの良さや団結力を紅組全体に作ることもできたと思う。当日はプレッシャーもあったけれど,応援合戦ではメンバーのやる気や勝てる力を僕の後ろから感じ,元気をもらった。

